

石川県立美術館だより

平成19年8月1日発行 第286号

ヴィクトリア アンド アルバート美術館所蔵

初公開 浮世絵名品展

7月21日(土)~8月19日(日) 会期中無休



「富嶽三十六景 尾州不二見原」葛飾 北斎
All images©V&A Images/Victoria and Albelt Museum

特別陳列 白山を描く

- 石川・福井の画家たち -

前田家の名宝 【後期】

特集 夏休み 親子で楽しむ美術館 加賀の美術工芸【後期】

7月21日(土)~9月2日(日) 会期中無休
8月末まで土曜日は午後8時まで開館します。



-白山を描く-より「雪の白山」森本 仁平/加賀アートギャラリー蔵

目次

浮世絵名品展	2	9月の現地見学募集	6
前田家の名宝(後期)	3	コレクション展示室 主な展示作品	7
加賀の美術工芸(後期)	3	今月の企画展示室	7
白山を描く	4	8月の行事予定	8
夏休み 親子で楽しむ美術館	5	所蔵品紹介	8

企画展示室(7~9展示室)

ヴィクトリア アンド アルバート美術館所蔵
初公開 浮世絵名品展

主催/ヴィクトリア アンド アルバート美術館・
北陸中日新聞・石川県立美術館・石川テレビ放送

7月21日(土)~8月19日(日)会期中無休

イギリスのヴィクトリア アンド アルバート美術館が所蔵する浮世絵を、一堂に紹介する展覧会を今夏開催します。ロンドンにあるヴィクトリア アンド アルバート美術館は、イギリスを代表する美術館の一つで、デザインを主たるテーマとした美術館として知られています。「V&A」のロゴの入ったウィリアム・モリスデザインの植物模様のグッズで、日本でも馴染みです。

このヴィクトリア アンド アルバート美術館に浮世絵が所蔵されていることは、以前から知られていたものの、これまでその全貌は明らかになっていませんでした。今回、本展覧会開催に伴い二度に渡る調査を行ったところ、浮世絵を所蔵する他の欧米の美術館とは異なつた、とてもユニークな特徴を持つコレクションであることがわかりました。本展では、その特徴からテーマを四つに分けて紹介しま

一、華麗なる錦絵の展開

はじめに、浮世絵初期の頃にあたる鈴木春信・磯田湖龍斎らの作品から、幕末明治期に活躍した河鍋暁斎に至るまでの作品を、美人



喜多川歌麿 青楼遊君合鏡 玉屋内 春日野歌浜

画・役者絵・風景画といったジャンル別に紹介します。美人画では、春信・一筆斎文調・喜多川歌麿、役者絵では勝川春章・勝川春好・歌川豊国、風景画では葛

飾北斎・歌川広重など多彩な作品を紹介します。

美人画の名手とされた歌麿の美人画のモデルのほとんどは、遊女です。立ち姿を描いたもの、上半身のみを描いた大首絵などさまざまありますが、『青楼遊君合鏡』は合鏡、つまり二人の姿が並べて描かれた大変珍しいものです。本図は、吉原の遊郭・玉屋内で最も人気のあつた春日野と歌浜を描いたもので、艶やかな二人の仕草が印象的な作品です。

風景画としては、北斎の『富嶽三十六景』より、有名な「神奈川沖浪裏」、「赤富士」の愛称で親しまれる「凱風快晴」をはじめ、「信州諏訪湖」、「尾州不二見原」など九図を展示します。広重の人気シリーズ「東海道五十三次」からは「原」、「鞠子」、「金谷」を紹介します。



歌川広重 江戸名所見立三光 両国月之景

二、稀少な団扇絵の世界

今回の調査で明らかになった、もっとも注目されるべき点は、団扇絵が多く確認されたことです。扇いで用いられる団扇に貼られたこれら団扇絵は、その使用頻度から遺されることはほとんどありませんでした。広重・歌川国芳といった浮世絵師だけでなく、酒井抱一・鈴木其一といった江戸琳派の絵師や谷文晁・渡辺華山などの文人画家の団扇絵も発見され、話題となりました。特に、広重の団扇絵コレクションは世界随一と賞されています。

三、最盛期の狂歌絵本

江戸時代に発行された本・版本も大量に所蔵されていますが、本展では狂歌絵本(狂歌とともに絵が添えられたもの)を中心に紹介します。歌麿の『画本虫撰』はその代表的作品で、虫や草花が緻密に描写されています。

四、肉筆画と版下・画稿

最後に、肉筆画と浮世絵版画用の版下絵と画稿を紹介します。中でも、北斎の『肉筆帖』は、彩色が施された図が七つ収められており、文化五、六年頃の作と考えられています。鶏や蟹などの生物や植物が生き生きと描かれた貴重なものです。

なお、会期中の土曜日は、午後八時まで閉館しますので、ゆくりご覧下さい。

観覧料

一般	1,100円	個人	一般	1,000円	団体(20名以上)
高・大学生	800円		高・大学生	600円	
小・中学生	500円		小・中学生	300円	

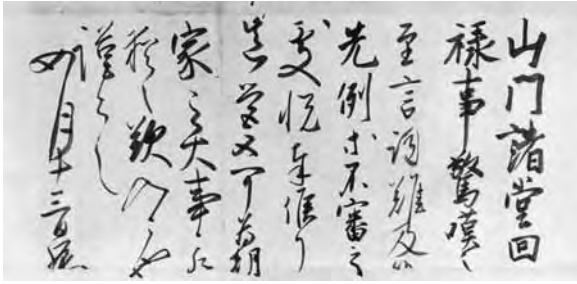
当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。前売り券は団体と同じ料金になります。

今月のコレクション展示室
(前田育徳会・尊經閣文庫展示室)

特別陳列 前田家の名宝

後期:7月21日(土)~9月2日(日)会期中無休

国宝 三朝宸翰 花園天皇



前回に引き続き開催する「前田家の名宝」の後期展示について紹介いたします。本展は当館の「ニール工事前の最後の展示となりますので、ぜひお楽しみいただきたいと思います。久方ぶりに公開する歌合や御宸翰を主に、初公開を含む絵画、金工漆芸、染織をあわせて展示し、加賀藩主の知的好奇心が育んだ豊かな文化を再認識いただいています。後半は国宝三点、重要文化財七点を含む三十五件の作品を、保存管理上期に分けて展示いたします。

国宝 三朝宸翰

三朝とは伏見、後醍醐、花園の三代天皇を指し、第一巻には花園天皇(一二九七~一三四八)の消息十二通を、第二巻には後醍醐天皇(一二八八~一三三九)の消息十通と伏見天皇(一二六五~一三二七)の消息二通を貼り継いだものです。各宸翰の末尾に青蓮院門跡尊円入道親王(一二九八~一三五六・伏見天皇の皇子、花園天皇の弟)の極めが、巻末には近衛前久(竜山・一四三六~一六二二)の識語があり、この消息は青蓮院門跡に賜ったものと推測されています。宸翰がこれだけまとまっており、その堂々とした筆跡とともに歴史資料としても貴重な作品です。五代綱紀の箱書があり、綱紀の時代に入手されたものと考えられています。

国宝 入道右大臣集(彩箋)

右大臣藤原頼宗(道長の第2子・九九三~一〇六五)の歌集で百九首が収められています。頼宗晩年の自撰集と考えられており、本書はその書写本です。頼宗は堀河右大臣といわれ、治暦元年(一〇六五)正月五日に出家したため、「入道右大臣」とも称されました。料紙は三十一紙で、唐紙・蠟箋・斐紙の色紙など華麗な料紙が用いられており、王朝人の高い美意識が窺われます。筆者は源俊頼(一〇五五~一二一九)といわれ、流麗な草仮名で書かれています。第六、七の二紙は藤原定家(一一六二~一二四一)の補写と考えられています。頼宗の私家集として唯一の存在といわれています。

国宝・重要文化財の展示替えは前号をご覧ください。

前回に引き続き、九月二日(日)まで開催中の「加賀の美術工芸」では、本館が所蔵する古美術作品の中から優品を紹介しています。七月二十一日(土)からは、特に秋の草花を題材とした絵画や漆工作品を紹介いたします。

菊や萩・桔梗・女郎花・芒などの秋草は、絵画や漆工作品の題材としてよく用いられました。夏が過ぎ風も涼しい秋の夜長にゆらめく秋草。空には月。こうした情景が、人間の寂しさや悲しさを投影するものとして、歌に詠まれたり、美術作品の題材になったりしたのです。

依屋宗達の弟とも弟子とも言われる依屋宗雪は、法橋の位も得た絵師ですが、その作品はほとんど伝えられていません。数少ない遺品が石川県指定文化財の『群鶴図屏風』と『萩に兔図屏風』(八月十一日より展示)で、いずれも秋草が描かれています。どちらにも金地になだらかな土坡が描かれ、鶴の群の合間から笹・松・萩があるいは、二羽の兔のかたわらに萩が描かれています。兎は月、そして萩とよく組み合わせ用いられる動物で、二羽の兔のうち左側の一羽は、月(描かれていませんが)を仰ぎ見ているのでしょうか。

鹿も萩と組み合わせ描かれる動物です。尾形光琳の『鹿に萩図硯箱』(八月十日まで展示)は、生い茂る萩の間からのぞく鹿が時絵で表現されています。

秋草の題材を最も得意としたのは、五十嵐道甫をはじめとする加賀時絵の漆工です。螺鈿・切金・付描などの技法によって、秋草などの写実的な表現に、意匠化されたモチーフを交えながら表しています。石川県指定文化財の伝五十嵐道甫作『時絵螺鈿秋月野景図硯箱』(八月十一日より展示)は、桔梗に螺鈿、菊に金銀貝貝を用いるなどした作品で、その多彩な装飾技法と、絵画的な奥行きある構図で加賀時絵の中でも優品とされるものです。

本特集ではその他、近年新たに収蔵されることになった石川県指定文化財の『時絵住吉図硯箱』(八月十日まで展示)や金沢市指定文化財の『高山右近書状』も紹介します。なお、後期は会期中、一部展示替えを行いますので、ご注意ください。

白山比咩神社所蔵
国宝 剣 銘 吉光
重文 太刀 銘 長光も特別展示します。

(第2展示室)

加賀の美術工芸

後期:7月21日(土)~9月2日(日)会期中無休

萩に兔図屏風部分 依屋宗雪



今月のコレクション展示室
(第6展示室)

特別陳列 **白山を描く**
- 石川・福井の画家たち -

7月21日(土)~9月2日(日)会期中無休

石川・福井・岐阜の三県にまたがる霊峰白山は、古くから人々の信仰の対象となり崇められてきました。麓の人々は、生活に豊かな恵みを与える河川の水源白山を、御神体として仰ぎ、しだいに修験道の一大聖地として登山参拝する人々が増えていくことになりました。

また白山は、ハクサンイチゲ、クロユリといった高山植物が自生し、山麓に広がるブナの原生林には、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザルなどの野生動物が生息し、イヌワシ、クマタカなどの鳥類の姿も見られ、貴重な自然の宝庫となっています。

こうした特徴を持つ白山は、昭和30年国定公園に指定され、さらに、白山の魅力にとりつかれた日本画家・玉井敬泉らの運動によって、37年に国立公園に昇格し、美し



「白山図」 玉井敬泉



「晩秋」 株田由雄
加賀市立錦城東小学校蔵

い自然が保護されてきました。その優美な姿は、近年、玉井をはじめとする郷土の画家たちの心をとらえ、絵画表現の対象となり、さまざまに描かれています。四季折々に装いを変え、見るものに安らぎと敬虔なる思いを抱かせる白山の表情が、日本画、油彩画それぞれの画家たちの筆によって、個性豊かにとらえられてきたのです。

本展は、石川県立歴史博物館で開かれる「石川・福井文化交流企画 白山」(7/21~8/26)に協賛して開催するもので、石川・福井の近現代画家による白山にちなんだ作品を一堂に展示し、あらためてその自然の美を感じとっていただくこととするものです。

出品作家

各分野五十首順・敬称略

「日本画」

- 石川 義 (昭和5) (金沢市生)
- 勝田輝雄 (昭和15) (福井市生)
- 玉井敬泉 (明治22~昭和35年)金沢市生
- 中出信昭 (昭和39) (川北町生)
- 原田太乙 (明治39~昭和58年)金沢市生

「油彩画」

- 井田重男 (昭和9~平成15年)珠洲市生
- 内本 浄 (昭和17~平成8年)東京都生
- 円地信二 (大正14) (小松市生)
- 大滝由季生 (昭和4) (白山市生)
- 小田根五郎 (昭和19) (京都市生)
- 形田良四郎 (昭和13) (白山市生)
- 株田由雄 (大正15) (金沢市生)
- 高光一也 (明治40~昭和61年)金沢市生
- 寅若 繁 (昭和13~平成18年)川北町生
- 松下絹子 (大正14) (福井市生)
- 松本 昇 (昭和6) (小松市生)
- 森本仁平 (明治44~平成16年)加賀市生



「白山」 円地信二

今月のコレクション展示室 (第4展示室)

夏休み 親子で楽しむ美術館

7月21日(土)~9月2日(日)会期中無休

夏は親子で美術館!

夏休みの特集企画として、コレクション展示室では「夏休み 親子で楽しむ美術館」がはじまります。今年のテーマは、「よく見てみよう なにが聞こえる?」です。このサブタイトルが表すように、展示室は話し声が聞こえてくるような作品、歌が聞こえてくるような作品、もしかしたらこんな会話をしているのかもしれないと、想像して楽しめる作品とさら三つの小テーマに区切り作品を紹介しします。

「会話が聞こえる?」というグループでは描かれている複数の人からの会話を、「音が聞こえる?」というグループでは、歌や音楽音などを、「動物たちからも聞こえる?」というグループは、描かれている動物たちが話しているかもしれない会話を、それぞれにゆっくり鑑賞しながら想像して楽しんでいただくと思います。

この夏休み特集展示は、お子さんの視点・観点に合わせて作成した作品鑑賞用のセルフガイドを見ながら、親子で考え、会話を楽しみながら鑑賞できるようにしています。子供が小さいので、作品をつくることは楽しくても、作品をみることは難しいのでは…と考えられがちです。確かに鑑賞に入るときに、「自由に見てほしい」と子供を展示室内に置くと、楽しいものが見つけられずに終わってしまうことが多いかもしれません。

この特集展示では大人もガイドを片手に「ここに出ている作品を見よう」、「どんな音が聞こえてきそう?」、「素敵だなと思う部分はどこかにないかな」など、お子さんと会話をしながら一緒に楽しんで見てください。一緒に楽しむ中で、きっと、大人が驚くような感想も飛び出してくると思います。

また、この特集展示は他の展示室に比べて絵が低く掛けられ、彫塑も低い台の上で展示されていて、ちいさな子供の目線にも合うように作品を展示してあります。普段の展示室とは違う視点でも作品鑑賞をお楽しみください。

今年にはさらに、夏休み行事からスタートしたキッズ プログラムが始まって五年目です。毎月土曜日に一回のペースで行っている鑑賞講座に、数年に渡って参加している小学生八名が、今まで鑑賞してきたコレクション展示の中から印象に残った一点を紹介してくれます。「色が印象的だった」、「かたちが面白かった」



みんなで同じ展示を鑑賞してきたのに、感じ方はさまざまです。小学生が感じた作品を見ることの楽しさを、皆さんもぜひ感じてください。

今回、テーマ展示とキッズ 鑑賞講座参加者が紹介する作品、あわせて二十七点を展示し、皆様をお待ちしております。今年もぜひ、夏休みのひとときを美術館でゆつくりお過ごしください。



「アコーディオン」 南 政善



「牛」 安嶋雨晶

今月のコレクション展示室

主な展示作品

7月21日(土)~9月2日(日) 会期中無休

●=国宝、○=重要文化財、
◇=重要美術品、□=石川県指定文化財

空蟬と美男蔓宝石筆筒
小松 芳光



一般 350円	個 人	観覧料	白山を描く 詳細は4P本文を参照下さい。	第6展示室	空蟬と美男蔓宝石筆筒 【漆工】 【染織】 麻地友禅瓜模様振袖	小松 芳光 木村 雨山	第5展示室 工芸	夏休み 親子で楽しむ美術館 望郷を歌へ故高英洋に) 添い寝	鴨居 玲 百々 俊雅	第4展示室	もうひとつの風景	伊東 哲 酒井 幸雄	【日本画】 視 残照	中村 徹 西山 英雄	【油彩画】 高原	第3展示室 日本画・油彩画・彫刻・素描	加賀の美術工芸 榎檜図屏風(八月十日まで) 萩に兔図屏風(八月十一日より)	依屋 宗達 依屋 宗雪	第2展示室 古美術	色絵雄雉香炉 色絵雌雉香炉	野々村 仁清 野々村 仁清	第1展示室	前田家の名宝 ●三朝辰翰 ●入道右大臣集彩牋(八月十日まで)	前田育徳会・尊經閣文庫展示室
大学生 280円		高校生以下 無料																						

参加者募集!

第37回文化財現地見学旅行

~ 築城400年・彦根城と湖東三山をめぐる ~

期 日: 9月29日(土)~30日(日)

1泊2日 宿泊は彦根市

参加費: 23,000円(友の会会員以外は24,000円)

募集定員: 40名(対象は原則として成人)

見学予定地: 金剛輪寺・西明寺・百済寺・彦根城・

彦根城博物館・天寧寺・向源寺

出発場所: JR金沢駅西口バスターミナル

時刻: 午前7時30分

到着場所: JR金沢駅西口バスターミナル

時刻: 午後6時30分(予定)

9月3日(月)より休館いたしますので、出発・到着場所はJR金沢駅西口バスターミナルのみとさせていただきます。マイカーでお越しの方は、駐車場は各自でご手配下さい。

宿泊はシングルルームのみとなります。部屋割り、こちらに一任させていただきます。

バスの座席は抽選番号順とさせていただきます。相席を希望する方がいる場合は、当日お話し合いの上、交替していただきますよう、お願いいたします。

食事については、旅行代金に2回の昼食と翌日の朝食代が含まれますが、夕食は各自でお願いいたします。

お申し込みの方法

往復はがきに下記の事項をご記入し、ご応募下さい。参加証を発行します。応募多数の場合は抽選を行い、参加者を決定させていただきます。

往復はがき裏面に文化財現地見学参加希望と明記し、住所・氏名・年齢・会員番号・電話番号をお書き下さい。

返信はがきの表面には、返信先(住所・氏名)をお書き下さい。返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。応募結果を印刷して返送いたします。

応募先: 〒920-0963 金沢市出羽町2-1
石川県立美術館文化財現地見学旅行あて
応募締切: 平成19年8月20日(月)必着

応募希望者1名につき、往復はがき1通でご応募下さい。お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意ください。

応募結果は締切日の翌日に発送いたします。この返信は再発行いたしません。

ご注意

当選された方は8月31日(金)までに必ず参加費をお支払い下さい。引き替えに参加証をお渡しますので、当日はこの参加証をお持ち下さい。

抽選もれの方にはキャンセル待ち番号が書かれたハガキを返送します。キャンセルがあった場合は、9月25日(火)までにお知らせいたします。

当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は、必ず当館へご連絡下さい。その後当館よりキャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りいたします。

2日間にわたる長時間のバス移動があり、また見学先の立地の都合上相当の距離を歩き、また石段の上り下りなどがあります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合に自信のない方は、今回の参加をご遠慮下さい。

今月の企画展示室

第17回 北國水墨画展

8月23日(木)~27日(月)【第7~9展示室】
8月25日(土)は午後8時まで開館

石川県内の水墨画愛好家団体を網羅した統一展です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

入場料

一般、大・高生:500円(400円)

中学生以下無料()内は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

問い合わせ

金沢市香林坊2-5-1

北國新聞社事業局内

「第17回 北國水墨画展」事務局

TEL:076-260-3581

第21回 日本新工芸石川会展

8月30日(木)~9月2日(日)【第7展示室】

日本新工芸家連盟は、工芸の原点を見つめ、個々の作家が素材をいかし技術を駆使して、現代に望まれている生活と美との調和をテーマとして制作活動を続けています。石川会展も21回を迎えることが出来ました。会員一同、いっそうの努力を重ねております。今回は、5月に国立新美術館にて開催された、第29回日本新工芸展の作品を中心に展示いたします。より多くの方にご高覧、ご批判をいただきたいと願っております。

主な出品作家

北出 不二雄、高光 一生、榎木 莊平、原田 実、戸出 克彦、柴田 博、向瀬 孝之、川田 稔、松本 昭二、高光 一雅、高光 史也、金田 一司、瀧川 千春、瀧川 佐智子、伊豆蔵 幸治、伊藤 寿江、山道 千種、川越 美和

入場料

一般500円 大学生以下無料

当館友の会会員は、会員証提示により300円になります。

連絡先

金沢市宮野町74 戸出 克彦

TEL:076-257-5951

第92回 公募写真展研展

— 東研創立100周年記念展 —

8月30日(木)~9月2日(日)【第8・9展示室】

東京写真研究会が主催する研展は4支部(関東・中部・関西・北陸)で構成されている。公募展は会員と公募部門に分けられ、第92回展は約320点の作品が展示される。

北陸部からは会員部門では「文部科学大臣賞」に矢木庄治、「創立100周年記念賞」には杉野時男、「研展賞」には山田秀人、富田晃子、「研展奨励賞」には吉川潔、石田宥。

公募では「東京都知事賞」に木本吉昭、「創立100周年記念賞」に福岡成之、「東研賞」には長田桂一、「東研奨励賞」には山下和代、森田紘一、塩崎孝一、番字一光、窪田裕兆の各氏が受賞しました。

入場無料

連絡先

金沢市東山2丁目2-8 土田 貴夫

TEL:076-251-0723

映像ギャラリー

8月の映像ギャラリーから

毎月お楽しみいただいております映像ギャラリーのうち、ビデオ鑑賞会では本年「作家シリーズ 創造の原点」をご覧いただいています。このシリーズでは、古今東西を問わず異色の芸術家を組み合わせ紹介することで、その個性の輝きに迫ろうとするもので、今月は下記のビデオを予定しています。

8月5日

芸術の革命 デュシャン/ウォーホール

20世紀初頭のフランスの芸術家デュシャンは、これまでの芸術という概念を疑い、そこから新しいものの見方や考え方を、さまざまな芸術的な手法で提起した存在として、現代芸術の父とみなされています。

またアメリカの画家ウォーホールは、20世紀半ば、大衆消費時代における芸術家の表現のあり方を追究した画期的な表現において注目されました。

彼らは、従来の固定化した芸術に風穴を開けた20世紀芸術の革命児ともいえるのです。

人間を見つめる眼 写楽/ロートレック

江戸時代後期に彗星のごとく現れ、役者の風貌を個性的にいきいきと、また大胆に表現した写楽。一方、19世紀末バリの歓楽街において、人々の生きる姿を巧みな筆使いによって描き出したロートレック。

この二人の芸術家に共通するものは、人間の内面までをとらえてそれを暴き出す、その鋭い観察眼と描写力にあったといえます。写楽の歌舞伎役者のグロテスクなまでの誇張的表現、ロートレックのダンサーや娼婦たちの表情や仕草をとらえた繊細な感性的表現は、おそらく彼ら自身が生きることを見つめていた結果の産物といえるでしょう。

8月の行事案内 《入場無料・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
8/5(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ15 芸術の革命 デュシャン/ウォーホール (30分) 作家シリーズ16 人間を見つめる眼 写楽/ロートレック (30分)	ホール
8/19(日)	月例映画会	日本の美 金閣銀閣 (30分) 日本の美 桂離宮 (30分)	ホール
8/25(土)	美術講座	映像の歩み 写真編 (5) 日本写真の黎明期 (西田 孝司 学芸専門員)	講義室
8/26(日)	月例映画会	絵巻 (28分) 日本の書 (20分)	ホール

きり かね ひのき ごう す ま に
截金 桧合子「摩尼」

にし で たい ぞう
西出 大三

大正2年～平成7年(1913～1995)

昭和52年(1977)第24回日本伝統工芸展
 胴径8.0 底径4.0 高さ10.0



「摩尼」とは仏教用語で、竜王の脳中から出たという宝珠を指し、これを得れば願いが思いのままにかなうといわれている。桧の素材を削りぬいた刀技、ことに12葉の蓮弁とその中に抱かれるように作られた宝珠形摘の上蓋、それらは絶妙なバランスとなり木彫家西出の刀の冴えがうかがえる。蓮弁の先から下書きなしで一気に引かれた截金の柔らかな曲線は、見る人にかすかな緊張と截金の線の美しさを堪能させてくれる。第24回日本伝統工芸展に出品された作品である。

作者西出大三は大正2年(1913)、加賀市橋立町に、北前船の大船主の家系に生まれ、その後金沢に転居し金沢一中(現金沢泉丘高校)に入学する。在学中に木彫家高村光雲に感化され東京美術学校彫刻科木彫部に入学する。そこで西出は、現代では失われてしまった「截金」と出会い、その技術復興に取り組んでみようかと決意する。以来、数多くの藤原・鎌倉期の仏像仏画の截金作品を見て回るとともに、その制作技法、道具等を研究し、ついに独力でその復元に成功、昭和30年、截金の技術は「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」に選択される。

昭和32年、第4回日本伝統工芸展に木彫截金彩色「瑞鳥」を出品し入選、翌33年の第5回展に截金彩色合子「富士」で技術賞を受賞し、翌年日本工芸会正会員となる。以後同展を中心に作品を発表、45年には日本工芸会理事、第6部会(人形その他)部会長、49年には第7部会(その他の工芸)を創設し部会長となるなど要職を重ね、60年に重要無形文化財「截金」保持者に認定される。

第5展示室で展示中

ミュージアムショップ通信

夏本番、みなさまいかがお過ごしですか？

いよいよミュージアムショップ通信も今回が最後となりました。長らくご愛顧頂いたショップも、美術館の休館にあわせて1年間お休みいたします。「いつか買おうと思っていたのに、ついつい買いそびれて」という商品は思い当たりませんか？美術館にお越しの際はぜひお立ち寄りください。きっと「あ、これこれ。これが欲しかった」と思い出すものもあるはず。お求めただけの貴重なチャンスになるかもしれません。

リニューアル後はショップの場所も現在の正面受付の隣に移転する予定です。更に満足頂けるミュージアムショップに生まれ変わり、皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

次回の当館展覧会

石川県立歴史博物館が会場になります

企画展

日本の美

- 人・鳥・花そして風景 -

コレクション
展示

古丸谷と石川の工芸 I

休館日：9月3日(月)～平成20年9月下旬

石川県立美術館だより 第286号
 2007年8月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号
 Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550
 URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>